

2019 年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の教員研修プログラムについての報告事項

2020 年 2 月 13 日

株式会社オープンソース・ワークショップ 代表取締役 永原 篤

1. はじめに

本項では、星槎国際高等学校の「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の中で計画された「考察に基づく生徒の強点を伸ばす教員研修プログラムの開発」について、内容を説明するとともに、星槎国際高等学校 帯広学習センターにて実施した内容を説明します。

- キャリアガイドシステムのアンケート機能
- アンケート項目の考え方
- アンケート結果の見方
- アンケート結果をもとにした教員への確認

2. キャリアガイドシステムのアンケート機能

キャリアガイドシステムにはアンケート機能があり、生徒からアンケートを収集し、集計することができます。

このアンケート結果の集計を用いて、生徒の状況を数値化し、強点や表面化する前の問題の発見につなげます。

アンケート機能の使い方は別途「新キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル(教員研修プログラム)」に記載します。

3. アンケート項目の考え方

強点や問題の発見にアンケートの回答から相関を探します。

以下はプロジェクトメンバーである大野 精一先生から提案されたアンケート項目とその結果から可能となる議論の例になります。

【アンケート項目】

項目	問い	選択肢
A	好きな授業はありますか	1) ない 2) 1つある 3) 2つ～3つある 4) 4つ以上ある
B	勉強がわからないときに 助けてくれる人がいますか	1) いない 2) 一人いる 3) 2～3人いる 4) 4人以上いる
C	勉強したくないときに応援 してくれる人はいますか	1) いない 2) 一人いる 3) 2～3人いる 4) 4人以上いる

2019 年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の教員研修プログラムについての報告事項

【アンケート項目から議論できる内容】

- 1) ない、あるいは いない とそれ例外に分ければ当然に χ^2 分布で独立性検定ができる（例えば A と C はそれぞれ独立している（全く関係ない）との帰無仮説が否定できても、それはある確率でそれぞれ独立しているとは言えない、ということだけであって、たとえば A と B の関係（相関）はわかりません）
- 2) ない、あるいは いない とそれ例外に分ければ、 $2 \times 2 \times 2$ の 8 通りの類型が出てくる（例えば、好きな授業があるのに助けてくれる人（support）も応援してくれる人（care）もないという類型では古典的な自学自習タイプが想定できるかも知れない）。その人数や比率を確定して当該教育機関での具体的な指導（care と support）のあり方を議論できる。
特に当該教育機関ではもし個人名が特定できれば、その援助はさらに具体的に進む。
- 3) 上記の A～C 項目の各相関を検討できる。
- 4) 3 項目全体の分布を三次元空間で表現し、その特徴を議論できる。
- 5) <学習ケア>関連の上記 A～C 項目とそれ以外のアンケート項目との関連を検討し、通信制高校における学習の意義を問うことができる。

4. アンケート結果の見方

アンケートデータの操作については、別途「新キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル（教員研修プログラム）」を参照してください。

以下は前述の 3 項目のアンケート結果を名義尺度に変換して集計したものです。

項目 A:好きな授業はありますか ⇒ 「ない」は N、他は Y

項目 B:勉強がわからないときに助けてくれる人がいますか ⇒ 「いない」は N、他は Y

項目 C:勉強したくないときに応援してくれる人はいますか ⇒ 「いない」は N、他は Y

表のタイトル行の値は、項目 A、B、C の集計をつなげたものです。

	YYY	NYY	YNY	YYN	NNY	NYN	YNN	NNN	合計
人数	8	2	1	4	0	5	8	3	31
割合	25.806	6.452	3.226	12.903	0	16.129	25.806	9.677	100

この結果から、YYY の好きな授業はあり、助けてくれる人も応援してくれる人もいると答えたのは 8 名、YNN で好きな授業はあるが、助けてくれる人、応援してくれる人がいないと答えたのが 8 名、NNN で好きな授業もなく、助けてくれる人、応援してくれる人がいないと答えたのが 3 名という結果が出た。

2019 年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の教員研修プログラムについての報告事項

5. アンケート結果をもとにした教員への確認

上記結果から特注意したいと思えた NNN の好きな授業もなく、助けてくれる人、応援してくれる人がいないと答えた3名を中心に学習センター長を含めた教員への確認を行った。

アンケートによる個人が特定できているため、個別の事情を理解している教員に確認することで、おおよその回答の理由も想像でき、この時は大きな問題ではないことが確認できた。

アンケート結果の集計は Excel を用いて行っているため、集計計算を変更することで、様々な集計が可能となり、学習センターに応じた状況把握や星槎国際高等学校としての集計が可能なものが出てきた。